

二〇二二年度 京大現代文 理系【三】 解答マニュアルと採点基準

担当 中野 芳樹

〈一般的採点基準〉

- a 誤字・脱字・略字・表現未熟・文末表現ミス・文末句点なし等……マイナス1点。設問毎に減点
- b 未完成……失格
- c 解答欄の不正使用(二行書き、書き過ぎその他)……失格
* 一行は二五文字程度。
- d 比喩表現のママなど……減点もしくは加点無し

〈設問別採点基準〉

問一 (10点)

日本の日常語や散文のリズムが、乱雑、即興的、無方向で、生き生きと多彩に変化するのに反し、短歌の五七五七七という音数律は、特殊な形、組み合わせ方の定型であるという事実。

* 「～であること。～という事実。」など「根拠はなにか」という設問要求に適した文末表現でなければ、1点減点

* 「不自然」「超日常的」「抽出しがたい」「人工的約束」など根拠と帰結(傍線部の置換)とを混同した解答は、不可

* ①・④・⑦は、必須ポイント

- ① 主題「短歌の・五七五七七の・音数律について」 2点
- ② ①が特殊な組合せ方(連結法)・形であること 2点
- ③ ①が定型であること 1点
- ④ 日本語の日常語・散文のリズムについて 2点
- ⑤ ④が乱雑、即興的、無方向であること 1点
- ⑥ ④が生き生きと多彩に変化する 1点
- ⑦ ①(②・③)と④(⑤・⑥)とが、背反すること 1点

問二 (10点)

定型の短歌詩型は、どの時代にも日常語の自然なリズムと対立断絶し、また強引に接続して、形式面で外的に非日常的な詩の世界を支える困難な作業を要すると思われるから。

* ①・④・⑤は必須ポイント

* 筆者の主観的理由説明の形式でなければ、1点減点

- ① 主題「短歌詩型」について 配点は無し
- ② ①は定型詩型である 1点
- ③ ①・②は
 - a 日常語の自然なリズムと対立 1点
 - * 「闘い」(擬人法)のママでは、加点しない
 - b 日常語の自然なリズムを断ち切り 1点
 - c 日常語の自然なリズムと強引に接続する 1点
- ④ ①・②はaとcの作業を要する・むづかしさがある 2点
- ⑤ ④は「古代・中世～現代まで変わらぬ(普遍的)」 2点
- ⑥ ①・②は「かたちの上から」「外から」非日常的な詩の世界を支える 2点

問三 (10点)

茂吉は、彼の内面を厳密な短歌詩型の約束のもとで正確に表明するために最適な語を、知る限りの古今東西の文章語の文法的あるいは語彙上の蓄積に求めているということ。

* ①・③・⑤は、必須ポイント

- ① 茂吉(自覚的歌人)の作歌態度について 1点
* 短歌を作る姿勢を説明したものと分かれば、可
- ② 「うたうべき思想内容」にある表現内容を短歌に表明 1点
- ③ ②を厳密な定型(短歌詩型)の約束のもとに表明 1点
- ④ ②と③に「忠実たらん」 正確な内容・適切な語 2点
- ⑤ 「全教養をあげて」 知る限り・古今東西に語を求め 2点
- ⑥ ⑤は(各時代の)文章語の文法的・語彙上の・遺産 3点